

MediaWiki for Kisorigaku

学生編集委員会

平成 22 年 10 月 1 日

目次

第 1 章	Kisorigaku	5
1.1	はじめに	6
	• 編集ページでのルール	6
	• アドバイス	6
第 2 章	MediaWiki の基本	7
2.1	新しいページを作る	8
	• 新しいページの作成	8
	• 内部リンク	8
	• 外部リンク	8
2.2	レイアウト	9
	• 見出し	9
	• 箇条書き	10
	• 強調	10
	• 目次	10
	使用方法	11
第 3 章	数式	13
3.1	簡単な数式	14
	• 特別な記号	14
	• 編集方法	14
	数式コマンド一覧	15
	括弧と区切り記号	18
	数式中での文字	18
	使用例	18
	• 書体	18
3.2	複雑な数式	19
	• 行列	19
	使用例	19
	• 複数行の数式	19
	場合分け	20
	複数行数式	20
	• 強制 PNG 画像レンダリング	20

第4章	画像	21
4.1	画像	22
	• 画像の編集	22
	• 画像のアップロード	22
	• 画像の貼り込み	23
第5章	表・その他	25
5.1	表	26
5.2	その他	27
	• 管理者について	27
	• おわりに	27
参考文献		28

1

Kisorigaku

必ずお読み下さい。

……1.1……

はじめに

Kisorigaku 版 Wikipedia には以下のような方針があります。

1.1.1 編集ページでのルール

1. 句読点は「、」句点は「。」に統一する。
2. 図や写真は、著作権の問題があるので、自作のもの以外は使用しない。著作権のないものは使用しても構わないが、出典を明記する。
3. 大項目、細項目の全ての項目は図や写真を含めて、A4 で 1 枚 (字数にして約 1200 字)。
4. 参考文献も加える (参考にした本や論文などがあれば、必ず参考文献として挙げる)。
5. 編集中の項目には“ 編集中 ”と記入する。

1.1.2 アドバイス

1. 完成品を作ろうと思わないこと。最初はデザインにこだわらず、とりあえず文章を入力し リンクを張る ことを考える。
2. 書いているときに「この項目の説明があつたらいいな」と思った単語があれば、すぐに [[...]] で囲んでリンクにしてしまう。そのリンク先のページを作ることは気にしない。(多分誰かがやってくれる)

2

MediaWikiの基本

……2.1……

新しいページを作る

2.1.1 新しいページの作成

まだ単語が存在しない場合	すでに単語が存在する場合
<ol style="list-style-type: none"> 1. リンク元にしたいページにアクセスする. 2. [編集] をクリックする. 3. そのページ中のリンクを張りたい場所にその単語を“[[...]]”でくくり記入する. 4. ページ下段から編集を保存する. 5. その単語をクリックする. 6. 未編集の状態なので, [編集] をクリックし内容を記述する. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. その単語が存在するページを開く. 2. [編集] をクリック. 3. そのページ中の作成したい項目の単語を“[[...]]”でくくる. 4. ページ下段から編集を保存する. 5. その単語をクリックする.

2.1.2 内部リンク

目的	命令
リンク先が元の記事名と同じ場合	[[...]]
リンク先と元の記事名が異なる場合	[[リンク先の記事名 元の記事名]]
リンク先のセクションまで指定する場合	[[リンク先の記事名(#項目) 元の記事名]]

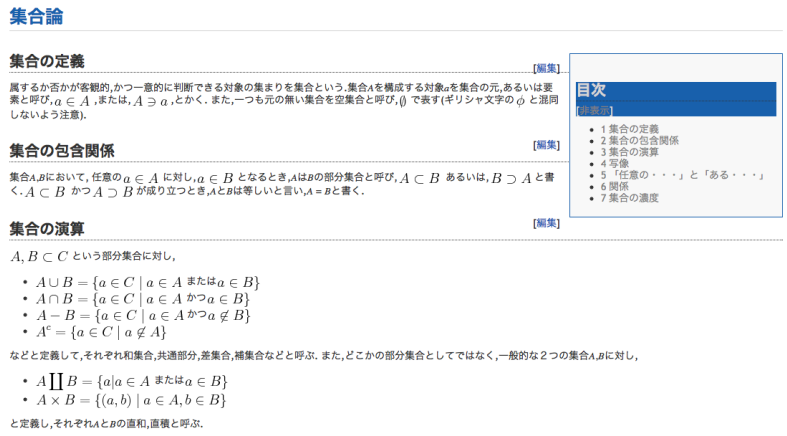
2.1.3 外部リンク

目的	命令
(名前を付ける) 外部サイトへのリンク	[アドレス_名前]
(名前を付けない) 外部サイトへのリンク	アドレスをそのまま記入

.....2.2.....

レイアウト

次の画像は実際に Kisorigaku 版 Wikipedia に存在するページですが、きれいにまとまっています。このように節や箇条書きを含むような記事を書くためにはどのようにすればよいのかを説明します。



2.2.1 見出し

```

— 見出し —
==見出し==
===小見出し===
====小項目の見出し====
    
```

と入力します。出力結果は次のようになります。

節の見出し

小見出し

小項目の見出し

2.2.2 箇条書き

箇条書きには番号を付けるものと付けないものの二種類があります。

— 箇条書き —

番号あり #

番号なし *

個数を増やすごとに深くなる。

番号付き箇条書き

番号付き箇条書き

番号付き箇条書き

番号付き箇条書き

番号付き箇条書き

* 箇条書き 1

** 箇条書き 2

*** 箇条書き 3

**** 箇条書き 4

***** 箇条書き 5

例えば、上のように入力すると次のようになります。

- 1. 番号付き箇条書き
 - 1. 番号付き箇条書き
 - 2. 番号付き箇条書き
 - 1. 番号付き箇条書き
 - 2. 番号付き箇条書き
- 箇条書き1
 - 箇条書き2
 - 箇条書き3
 - 箇条書き4
 - 箇条書き5

2.2.3 強調

定義や定理を書くときに強調したいときがあると思います。そのようなときは次のコマンドを使いましょう。

— 定理の強調 —

; 定理名

例えば、“; Sylow の定理” とすると次のように入力されます。

Sylow の定理

さらに、

このように囲って用語の定義をすることもできます。

上のように囲いたい場合は次のコマンドを使います。

— 囲う場合 —

「内容」

とします。ただし、これには使用するブラウザによっては正しく表示されないという問題があります。

2.2. レイアウト

2.2.4 目次

MediaWiki には下図のように目次を作る機能があります。
記事が長くなりどこに何が書いてあるのか分からないページにならないためにも是非目次を付けましょう。¹⁾

数学

数学は自然科学の基礎となる学問です。ここでは、他の自然科学との関連に重きを置いた視点から、数学、数理論理学の基礎について解説します。

基礎に関する分野 [編集]

微分積分学, 線形代数学, 距離・位相空間論, 集合論など

代数学 [編集]

群論, 環論, 体論など

幾何学 [編集]

トポロジー, ホモロジー論, 多様体論など

解析学 [編集]

複素解析学, 確率論, 関数解析, Lebesgue積分など

応用数学 [編集]

一般 [編集]

歴史と伝記 [編集]

目次

[非表示]

- 1 基礎に関する分野
- 2 代数学
- 3 幾何学
- 4 解析学
- 5 応用数学
- 6 一般
- 7 歴史と伝記

使用方法

見出しが4つ以上あるページには、基本的にセクション見出しから自動生成される目次が表示されます。強制的に表示、非表示とするには以下のコマンドを用います。

命令	出力
<code>--NOTOC--</code>	これが書かれたページの目次を表示しません。
<code>--FORCETOC--</code>	目次の表示を強制します。
<code>--TOC--</code>	これの置かれた場所に(のみ)目次を置きます。 <code>--NOTOC--</code> があってもそこに目次を表示します。

この他にも目次にはいろいろな種類があるので詳しく知りたい場合はヘルプページ等で確認してください。

¹⁾とは言っても、Kisorigaku のルールにあるように1ページ1200字程度が目安ですからどどんリンクを張って

目次がなくても見やすいページにするのが理想です。

3

数式

……3.1……

簡単な数式

ここから数式の入力について説明します。数式を入力する場合は次のように囲むことから始まります。

数式の入力

`$…$`で囲む

例えば $y = f(x)$ と入力したければ、`$y=f(x)$`と入力します。

3.1.1 特別な記号

`$…$` 中では以下のように役割が決まっているものがあります。

編集ページでの記号	働き
¥, \	命令のためのエスケープ文字
^	数式内で上付きの添え字とする
_	数式内で下付きの添え字とする
{	グループ化の開始
}	グループ化の終了
&	行列などの要素の区切り

3.1.2 編集方法

MediaWiki での数式入力の仕組みは、一つ一つの数学記号に名前が付けられていて、それを打ち込んでいくマークアップ方式をとっています。例えば $\sum_{n=1}^{\infty} a_n = \infty$ と入力したい場合は次のような手順になります。

1. `$$` を書きます。
2. `$$` の中に \sum を出力するためのコマンド `\sum` を入力します。
3. $n = 1$ から ∞ までなので、 ∞ を出力するコマンド `\infty` を使って、`\sum_{n=1}^{\infty}` とします。ここまでで、`$\sum_{n=1}^{\infty}$` となっています。
4. あとは a_n ですが、下付きの添字を出力する `_` を使って `a_{n}` となり 3 の最後に付け加えます。
5. イコールはキーボードにあるイコールを使い、右辺の ∞ を入力して、`$\sum_{n=1}^{\infty} a_{n}=\infty$` となり、これが $\sum_{n=1}^{\infty} a_n = \infty$ を出力するための命令となります。

3.1. 簡単な数式

以上のことから容易に推測できるように、数式入力においては数式記号のすべてにそれを出力するためのコマンドが用意されています。以下に代表的なコマンドを書いておきます。より詳しいコマンドは参考書を見て下さい。¹⁾

数式コマンド一覧

- ギリシャ文字

命令	出力	命令	出力	命令	出力	命令	出力
<code>\alpha</code>	α	<code>\eta</code>	η	<code>\nu</code>	ν	<code>\tau</code>	τ
<code>\beta</code>	β	<code>\theta</code>	θ	<code>\xi</code>	ξ	<code>\upsilon</code>	υ
<code>\gamma</code>	γ	<code>\iota</code>	ι	<code>o</code>	o	<code>\phi</code>	ϕ
<code>\delta</code>	δ	<code>\kappa</code>	κ	<code>\pi</code>	π	<code>\chi</code>	χ
<code>\epsilon</code>	ϵ	<code>\lambda</code>	λ	<code>\rho</code>	ρ	<code>\psi</code>	ψ
<code>\zeta</code>	ζ	<code>\mu</code>	μ	<code>\sigma</code>	σ	<code>\omega</code>	ω

- 大文字を使うときは\に続くその英語名の先頭を大文字にすることで出力できます。
- イプシロンは、数学では`\varepsilon`と命令して出力される ε を使う方が自然です。
- オミクロンはアルファベットの o と同一なので、フォントは用意されていません。

- 数式アクセント

命令	出力	命令	出力	命令	出力
<code>\hat{a}</code>	\hat{a}	<code>\grave{a}</code>	\grave{a}	<code>\dot{a}</code>	\dot{a}
<code>\check{a}</code>	\check{a}	<code>\tilde{a}</code>	\tilde{a}	<code>\ddot{a}</code>	\ddot{a}
<code>\breve{a}</code>	\breve{a}	<code>\bar{a}</code>	\bar{a}	<code>\vec{a}</code>	\vec{a}
<code>\acute{a}</code>	\acute{a}				

- 大きな数式アクセント

命令	出力	命令	出力
<code>\overline{x+y}</code>	$\overline{x+y}$	<code>\overbrace{x+y}^{\text{添え字}}</code>	$\overbrace{x+y}^{\text{添え字}}$
<code>\underline{x+y}</code>	$\underline{x+y}$	<code>\underbrace{x+y}_{\text{添え字}}</code>	$\underbrace{x+y}_{\text{添え字}}$
<code>\widehat{x+y}</code>	$\widehat{x+y}$	<code>\overrightarrow{x+y}</code>	$\overrightarrow{x+y}$
<code>\widetilde{x+y}</code>	$\widetilde{x+y}$	<code>\overleftarrow{x+y}</code>	$\overleftarrow{x+y}$

- 省略を表す点

命令	出力
<code>\ldots</code>	\dots
<code>\cdots</code>	\cdots
<code>\vdots</code>	\vdots
<code>\ddots</code>	\ddots

¹⁾数理 5 階計算機室に参考書が用意されています。

第 3 章 数式

- 関係子

命令	出力	命令	出力	命令	出力	命令	出力
<code>\le</code>	\leq	<code>\in</code>	\in	<code>\sqsupseteq</code>	\supseteq	<code>\neq</code>	\neq
<code>\prec</code>	\prec	<code>\notin</code>	\notin	<code>\dashv</code>	\dashv	<code>\doteq</code>	\doteq
<code>\preceq</code>	\preceq	<code>\ge</code>	\geq	<code>\ni</code>	\ni	<code>\propto</code>	\propto
<code>\ll</code>	\ll	<code>\succ</code>	\succ	<code>\equiv</code>	\equiv	<code>\models</code>	\models
<code>\subset</code>	\subset	<code>\succeq</code>	\succeq	<code>\sim</code>	\sim	<code>\perp</code>	\perp
<code>\subseteq</code>	\subseteq	<code>\gg</code>	\gg	<code>\simeq</code>	\simeq	<code>\mid</code>	\mid
<code>\sqsubset</code>	\sqsubset	<code>\supset</code>	\supset	<code>\asymp</code>	\asymp	<code>\parallel</code>	\parallel
<code>\sqsubseq</code>	\sqsubseteq	<code>\supseteq</code>	\supseteq	<code>\approx</code>	\approx	<code>\bowtie</code>	\bowtie
<code>\vdash</code>	\vdash	<code>\sqsupset</code>	\sqsupset	<code>\cong</code>	\cong	<code>\Join</code>	\Join
<code>\smile</code>	\smile	<code>\frown</code>	\frown				

- 演算子

命令	出力	命令	出力	命令	出力	命令	出力
<code>\pm</code>	\pm	<code>\cap</code>	\cap	<code>\diamond</code>	\diamond	<code>\oplus</code>	\oplus
<code>\mp</code>	\mp	<code>\cup</code>	\cup	<code>\bigtriangleup</code>	\bigtriangleup	<code>\ominus</code>	\ominus
<code>\times</code>	\times	<code>\uplus</code>	\uplus	<code>\bigtriangledown</code>	\bigtriangledown	<code>\otimes</code>	\otimes
<code>\div</code>	\div	<code>\sqcap</code>	\sqcap	<code>\triangleleft</code>	\triangleleft	<code>\oslash</code>	\oslash
<code>\ast</code>	$*$	<code>\sqcup</code>	\sqcup	<code>\triangleright</code>	\triangleright	<code>\odot</code>	\odot
<code>\star</code>	$*$	<code>\vee</code>	\vee	<code>\lhd</code>	\lhd	<code>\bigcirc</code>	\bigcirc
<code>\circ</code>	\circ	<code>\wedge</code>	\wedge	<code>\rhd</code>	\rhd	<code>\dagger</code>	\dagger
<code>\bullet</code>	\bullet	<code>\setminus</code>	\setminus	<code>\unlhd</code>	\unlhd	<code>\ddagger</code>	\ddagger
<code>\cdot</code>	\cdot	<code>\wr</code>	\wr	<code>\unrhd</code>	\unrhd	<code>\amalg</code>	\amalg

- 演算子

命令	出力	命令	出力	命令	出力	命令	出力
<code>\pm</code>	\pm	<code>\cap</code>	\cap	<code>\diamond</code>	\diamond	<code>\oplus</code>	\oplus
<code>\mp</code>	\mp	<code>\cup</code>	\cup	<code>\bigtriangleup</code>	\bigtriangleup	<code>\ominus</code>	\ominus
<code>\times</code>	\times	<code>\uplus</code>	\uplus	<code>\bigtriangledown</code>	\bigtriangledown	<code>\otimes</code>	\otimes
<code>\div</code>	\div	<code>\sqcap</code>	\sqcap	<code>\triangleleft</code>	\triangleleft	<code>\oslash</code>	\oslash
<code>\ast</code>	$*$	<code>\sqcup</code>	\sqcup	<code>\triangleright</code>	\triangleright	<code>\odot</code>	\odot
<code>\star</code>	$*$	<code>\vee</code>	\vee	<code>\lhd</code>	\lhd	<code>\bigcirc</code>	\bigcirc
<code>\circ</code>	\circ	<code>\wedge</code>	\wedge	<code>\rhd</code>	\rhd	<code>\dagger</code>	\dagger
<code>\bullet</code>	\bullet	<code>\setminus</code>	\setminus	<code>\unlhd</code>	\unlhd	<code>\ddagger</code>	\ddagger
<code>\cdot</code>	\cdot	<code>\wr</code>	\wr	<code>\unrhd</code>	\unrhd	<code>\amalg</code>	\amalg

3.1. 簡単な数式

- 数学記号

命令	出力	命令	出力	命令	出力	命令	出力
<code>\aleph</code>	\aleph	<code>\Im</code>	\Im	<code>\top</code>	\top	<code>\flat</code>	\flat
<code>\hbar</code>	\hbar	<code>\partial</code>	∂	<code>\bot</code>	\perp	<code>\natural</code>	\natural
<code>\imath</code>	i	<code>\infty</code>	∞	<code>\angle</code>	\angle	<code>\sharp</code>	\sharp
<code>\jmath</code>	j	<code>\prime</code>	$'$	<code>\triangle</code>	\triangle	<code>\clubsuit</code>	\clubsuit
<code>\ell</code>	ℓ	<code>\emptyset</code>	\emptyset	<code>\forall</code>	\forall	<code>\diamondsuit</code>	\diamondsuit
<code>\wp</code>	\wp	<code>\nabla</code>	∇	<code>\exists</code>	\exists	<code>\heartsuit</code>	\heartsuit
<code>\Re</code>	\Re	<code>\surd</code>	\surd	<code>\neg</code>	\neg	<code>\spadesuit</code>	\spadesuit
<code>\mho</code>	\mho	<code>\ </code>	$\ $	<code>\backslash</code>	\backslash	<code>\Box</code>	\square
<code>\Diamond</code>	\diamond						

- 数学関数

命令	出力	命令	出力	命令	出力	命令	出力
<code>\arccos</code>	\arccos	<code>\csc</code>	\csc	<code>\ker</code>	\ker	<code>\min</code>	\min
<code>\arcsin</code>	\arcsin	<code>\deg</code>	\deg	<code>\lg</code>	\lg	<code>\Pr</code>	\Pr
<code>\arctan</code>	\arctan	<code>\det</code>	\det	<code>\lim</code>	\lim	<code>\sec</code>	\sec
<code>\arg</code>	\arg	<code>\dim</code>	\dim	<code>\liminf</code>	\liminf	<code>\sin</code>	\sin
<code>\cos</code>	\cos	<code>\exp</code>	\exp	<code>\limsup</code>	\limsup	<code>\sinh</code>	\sinh
<code>\cosh</code>	\cosh	<code>\gcd</code>	\gcd	<code>\ln</code>	\ln	<code>\sup</code>	\sup
<code>\cot</code>	\cot	<code>\hom</code>	\hom	<code>\log</code>	\log	<code>\tan</code>	\tan
<code>\coth</code>	\coth	<code>\inf</code>	\inf	<code>\max</code>	\max	<code>\tanh</code>	\tanh

- 矢印類

命令	出力	命令	出力
<code>\gets (\leftarrow)</code>	\leftarrow	<code>\longleftarrow</code>	\longleftarrow
<code>\Leftarrow</code>	\Leftarrow	<code>\Longleftarrow</code>	\Longleftarrow
<code>\to (\rightarrow)</code>	\rightarrow	<code>\longrightarrow</code>	\longrightarrow
<code>\Rightarrow</code>	\Rightarrow	<code>\Longrightarrow</code>	\Longrightarrow
<code>\leftrightarrow</code>	\leftrightarrow	<code>\longleftrightarrow</code>	\longleftrightarrow
<code>\Leftrightarrow</code>	\Leftrightarrow	<code>\Longleftrightarrow</code>	\Longleftrightarrow
<code>\mapsto</code>	\mapsto	<code>\longmapsto</code>	\longmapsto
<code>\hookrightarrow</code>	\hookrightarrow	<code>\hookleftarrow</code>	\hookleftarrow
<code>\leftharpoonup</code>	\leftharpoonup	<code>\rightharpoonup</code>	\rightharpoonup
<code>\leftharpoondown</code>	\leftharpoondown	<code>\rightharpoondown</code>	\rightharpoondown
<code>\rightleftharpoons</code>	\rightleftharpoons	<code>\leadsto</code>	\leadsto
<code>\uparrow</code>	\uparrow	<code>\Uparrow</code>	\Uparrow
<code>\downarrow</code>	\downarrow	<code>\Downarrow</code>	\Downarrow
<code>\updownarrow</code>	\updownarrow	<code>\Updownarrow</code>	\Updownarrow
<code>\nearrow</code>	\nearrow	<code>\searrow</code>	\searrow
<code>\swarrow</code>	\swarrow	<code>\nwarrow</code>	\nwarrow

括弧と区切り記号

例えば $\left(\frac{1}{2}\right)$ と出力したければ `\left(\frac{1}{2}\right)` と入力します。すると MediaWiki が自動的に最適な大きさに調節してくれます。これはどのような括弧類にも対応しているので便利です。ただし、`\left` と `\right` は必ず組にして用いなければなりません。

数式中での文字

`$...$` の中で文字を出力したい場合は次のコマンドを使います。

数式中での文字

`\mbox{...}`

使用例

編集ページでの入力	出力
<code><math>x^{2}</math>, <code><math>a_{n}</math></code></code>	x^2, a_n
<code><math>\frac{分子}{分母}</math></code>	$\frac{\text{分子}}{\text{分母}}$
<code><math>\sqrt[n]{x}</math></code>	$\sqrt[n]{x}$
<code><math>\sin_kx</math></code>	$\sin kx$
<code><math>\lim_{n\to\infty}x_n=a</math></code>	$\lim_{n\rightarrow\infty} x_n = a$
<code><math>\int_0^1\sum_{i=1}^{\infty}f_i(x) dx</math></code>	$\int_0^1 \sum_{i=1}^{\infty} f_i(x) dx$

3.1.3 書体

書体名	命令	出力
太字白抜き (ブラックボード・ボールド)	<code>\mathbb{ABCDEF}</code>	\mathbb{ABCDEF}
太字 (ベクトルなど)	<code>\mathbf{ABCDEF}</code>	\mathbf{ABCDEF}
イタリック体	<code>\mathit{ABCDEF}</code>	ABCDEF
ローマン体 (通常書体)	<code>\mathrm{ABCDEF}</code>	ABCDEF
フランクツール	<code>\mathfrak{ABCDEF}</code>	\mathfrak{ABCDEF}
カリグラフィ (スクリプト体)	<code>\mathcal{ABCDEF}</code>	\mathcal{ABCDEF}

Coffee Break

関係子を重ねる方法

MediaWiki では使えないようですが、 \LaTeX には $\stackrel{\text{def}}{\Rightarrow}$ のように関係子を重ねるための命令も用意されています。`\stackrel` 命令を使い、

`\stackrel{\mathrm{def}}{\Leftrightarrow}` と入力します。

……3.2……

複雑な数式

3.2.1 行列

行列を表現する方法はいくつか存在しますが、入力の基本はどれも同じなのでまとめて説明します。例えば、 $\begin{pmatrix} x & y \\ z & w \end{pmatrix}$ と出力したければ、次のように入力します。

```
<math>
\begin{pmatrix}
x & y \\
z & w
\end{pmatrix}
</math>
```

pmatrix の部分を matrix, vmatrix, Vmatrix, bmatrix, Bmatrix, とすると出力結果は順に、

$$\begin{matrix}
x & y \\
z & w
\end{matrix}
\quad
\begin{vmatrix}
x & y \\
z & w
\end{vmatrix}
\quad
\left\| \begin{matrix}
x & y \\
z & w
\end{matrix} \right\|
\quad
\begin{bmatrix}
x & y \\
z & w
\end{bmatrix}
\quad
\begin{Bmatrix}
x & y \\
z & w
\end{Bmatrix}$$

となります。

使用例

$$\begin{bmatrix}
0 & \cdots & 0 \\
\vdots & \ddots & \vdots \\
0 & \cdots & 0
\end{bmatrix}$$

```
<math>
\begin{bmatrix}
0 & \cdots & 0 \\
\vdots & \ddots & \vdots \\
0 & \cdots & 0
\end{bmatrix}
</math>
```

3.2.2 複数行の数式

場合分け

行列の入力方法と似ています。例えば、

$$f(x) = \begin{cases} 0 & x < 0 \\ 1 & x \geq 0 \end{cases}$$

は次のように入力します。

```
<math>
f(x)=
\begin{cases}
0 & x < 0 \\
1 & x \geq 0
\end{cases}
</math>
```

複数行数式

$$\begin{aligned} f(x) &= (a + b)^2 \\ &= a^2 + 2ab + b^2 \end{aligned}$$

```
<math>
\begin{align}
f(x) &= (a+b)^2 \\
&= a^2 + 2ab + b^2
\end{align}
</math>
```

3.2.3 強制 PNG 画像レンダリング

数式を書くとき `$$` の中に 3.1.1 項で使ったような “\” が含まれている場合 MediaWiki は自動的に PNG 画像として表示されますが、`A, B` のような場合は HTML で表示されます。しかし、これは小さく、大変見にくいので強制的に PNG 画像化しましょう。

強制 PNG 画像レンダリング

数式の後ろに “_” を付け加える

実際に一つ例を見てみましょう。左側が HTML、右側が PNG です。

$$1_x \quad 1_x$$

どうでしょうか。少し大きくなり見やすくなっただけでなく、`x` が x と数学書らしくなりました。

4

画像

.....4.1.....

画像

MediaWiki にアップロードすることができるファイル形式は現在の設定では拡張子が gif, jpeg, jpeg, ogg, png のみです。

ページに画像を張り込むまでの流れは次のようになります。

1. 張り込む画像を編集する。
2. ログインする。
3. 画像をアップロードする。
4. 編集画面でアップロードした画像ファイルを指定する。

4.1.1 画像の編集

画像をアップロードする前にあらかじめ大きさ等を編集しておくとなかなか楽です。大きさの変更、トリミングのような簡単な作業なら Windows 付属“ペイント”で十分です。もう少し複雑な作業の場合でもフリーソフトの“GIMP”を使えば大概のことは可能です。

4.1.2 画像のアップロード

1. ログインする。
2. Kisorigaku トップページ左下にあるツールから「アップロード」をクリック。
3. 図のように必要事項を入力する。

表示

- » 本文
- » ノート
- » ソースを表示
- » 履歴

個人用ツール **①ログインする.**

- » ログインまたはアカウント作成

ナビゲーション

- » メインページ
- » コミュニティ・ポータル
- » 最近の出来事
- » 最近更新したページ
- » おまかせ表示
- » ヘルプ
- » 寄付

検索

検索

検索

ツールボックス **②アップロードをクリック.**

- » リンク元
- » リンク先の更新状況
- » アップロード
- » 特別ページ
- » 印刷用バージョン

アップロード

ファイルを新しくアップロードする場合には、以下のフォームを利用してください。

- 過去にアップロードされた画像は画像リストで閲覧したり探したりできます。
- アップロードや削除はログに記録されます。
- 「アップロード」ボタンを押すと、アップロードが完了します。

ページに画像を挿入するには

- `[[画像:File.jpg]]`
- `[[画像:File.png|thumb|代替テキスト]]`

といった書式を扱います。
画像ページではなくファイルに直接リンクするには

- `[[Media:File.ogg]]`

とします。

③アップロードする画像を選択.

ファイル名:

掲載するファイル名: **④画像リストに表示されるファイル名を入力.**

ファイルの概要:

⑤画像についてちょっとした説明を書いておくとなかなか楽です.

ウォッチリストに追加 警告を無視

⑥アップロードをクリック.

4.1. 画像

4.1.3 画像の貼り込み

編集ページで、画像を挿入する命令を書きます。

目的	命令
アップロードしたときのファイル名をそのまま使う場合	[[画像:File.jpg]]
ファイル名を変更して貼り付ける場合	[[画像:File.jpg thumb 代替テキスト]]
画像ページではなくファイルに直接リンクする場合	[[Media:File.jpg]]

Coffee Break

MediaWiki での数式表示

MediaWiki では第3章で説明したように $T_{\text{E}}X$ という技術を使うことで数式をきれいに表示していました。しかしこれはPNG形式の画像ファイルとして文章中に埋め込んでいる（単なる画像ファ

イルであり数式の意味などは含まれていない）ので、これらを含むように検索をかけてもヒットしません。



5

表・その他

……5.1……

表

表に関しては MediaWiki のヘルプページで各自調べてください。
また、ヘルプページには試しに記事を入力できる場所があります。

The screenshot shows the MediaWiki Help:Table page. On the left sidebar, under 'ナビゲーション', the 'ヘルプ' link is highlighted with a red arrow. In the main content area, under the heading '以下は練習用のページです。 コマンドの練習ができます。', the 'サンドボックス' link is also highlighted with a red arrow. The page title is 'Help:目次' and the sub-heading is '編集するときに参考になるページ'.

……5.2……

その他

5.2.1 管理者について

記事の削除, アップロードできるファイルの種類など MediaWiki システムに関する設定はこれを管理している玉木大教授 (数理自然情報科学科) しか変更することができません.

このような変更を希望する場合は新入生ゼミで集まる時かメールで依頼してください.

5.2.2 おわりに

このマニュアルは MediaWiki でできることのほんの一部を説明しただけです. より高度な扱い方についてはヘルプで調べてください.

参考文献

- [1] 乙部徹己 『p \LaTeX 2 ϵ for Windows Another Manual Basic Kit 1999』 ソフトバンク
- [2] 奥村晴彦 『 \LaTeX 2 ϵ 美文書作成入門 第4版』 技術評論社

